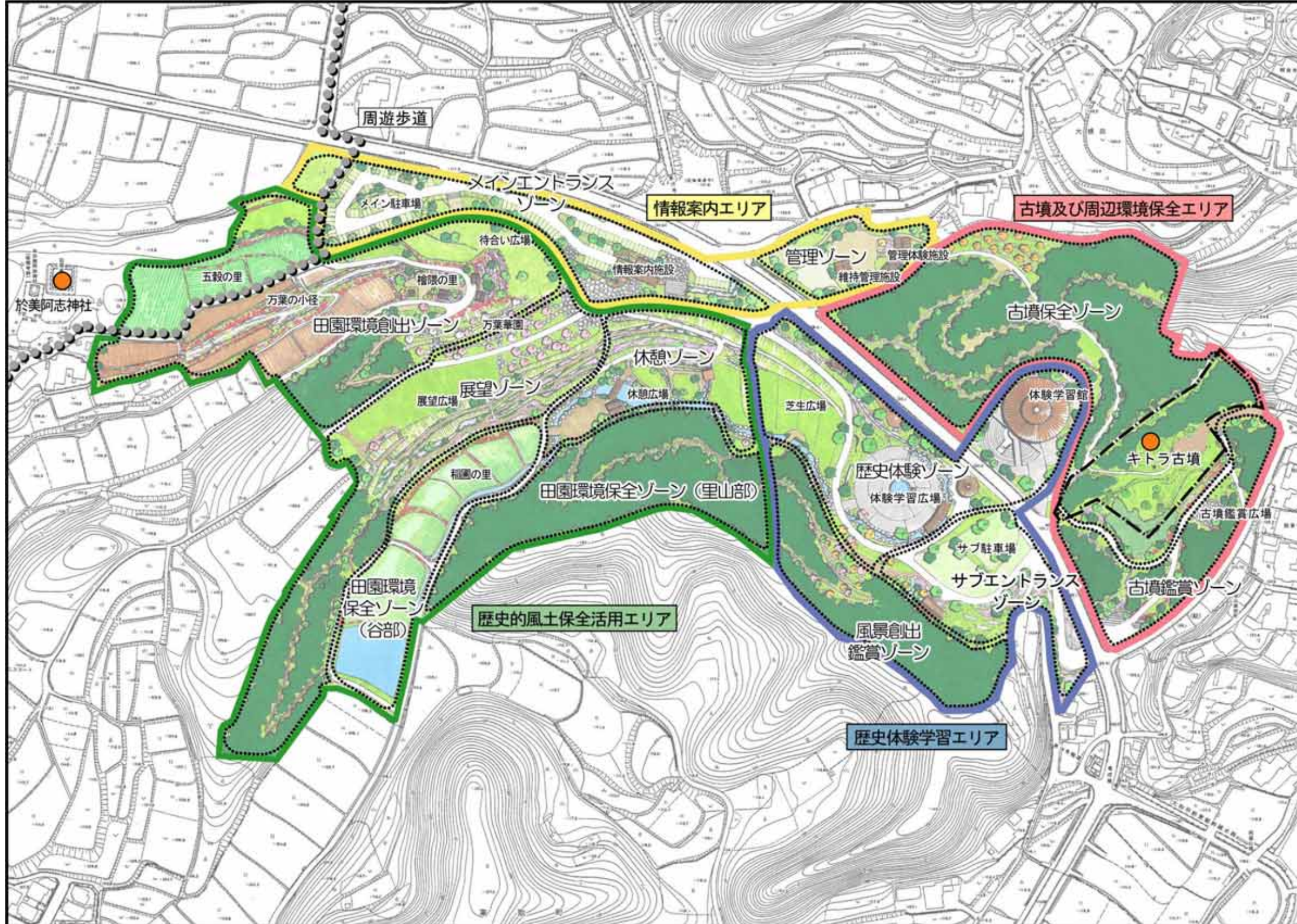


3. 空間計画のとりまとめ

(1) ゾーニングと機能配置計画の再確認



- 古墳及び周辺環境保全エリア
- ①古墳安全ゾーン  
:古墳周辺の樹林地を古墳本体と一体となった周辺環境として保全するため、高質な管理を行う。
  - ②古墳鑑賞ゾーン  
:キトラ古墳の全容が見渡せる空間として季節感漂う野の花等による修景を行う。
- 歴史体験学習エリア
- ①歴史体験ゾーン  
:様々な歴史的文物やレプリカの展示等を行うほか、館内外での歴史系体験学習の中心となる施設を整備する。マルチメディアや双方向型の展示等により、楽しく分かりやすい歴史学習の拠点とし、企画展示やイベント等の企画にも対応していく。
  - ②サブエントランスゾーン  
:キトラ古墳への団体客や一時立ち寄り客の利用に対応した駐車場として、大型観光バスの駐車可能な空間とする。また、古墳本体・展示施設に近接することから、自転車来園者のための駐輪場の整備を図る。
  - ④風景創出・鑑賞ゾーン  
:体験学習広場周辺の斜面地は、景観構成要素、視点場として重要であるため、公園の景観フレームを構成する空間として積極的に修景するとともに、眺望点の整備を行う。
- 歴史的風土保全活用エリア
- ①田園環境安全ゾーン (谷部)  
:谷筋に展開する農地と耕作放棄地を生かし、参加型維持管理による棚田空間の保全を行う。斜面やあぜ道などは、在来草本種による修景を行う。
  - ②田園環境安全ゾーン (里山部)  
:里山空間としての良好な環境づくりを行います。アメリティ豊かな森林景観の管理を来園者の参加による参加型の新しい維持管理手法の実験の場とする。
  - ③休憩ゾーン  
:三方を緑に囲まれた、ゆったりと休息ができるメインの広場空間とする。サービス機能の充実したエントランスゾーンと歴史体験ゾーンとの連携により、さまざまな催しにも対応する。
  - ④展望ゾーン  
:谷筋と尾根筋が織り成す飛鳥の風土性を代表する空間と葛城金剛山系を眺める視点場となる場所で、隣接する古都法による買入地等と一体的に保全・修景を行う。
  - ⑤田園環境創出ゾーン  
:檜隈寺跡に隣接する場所であることから、田園風景を再生するとともに、当時渡来人がもたらした大陸文化や先進の技術を体験できる工房群を設置し、当時の生活が体験できる場とする。
- 情報案内エリア
- ①メインエントランスゾーン  
:キトラ古墳周辺地区全体のメインゲートとして、情報提供、購買等のサービス提供施設とメインの駐車場を設ける。
  - ②管理ゾーン  
:本地区の施設全体の管理を担うとともに、ボランティアの活動拠点としての施設の配置や植栽等のバックヤードなど、飛鳥公園他地区や飛鳥各地の歴史的風土の保全に寄与するハードとソフトを育んでいく場とする。

